

## レルテックMD21点検リスト

治療器を正常かつ安全に使用し、效能や効果を十分に維持するために下記の点検をしてください。  
異常がみられる場合は、ご使用を中止し、必ず電源コードのプラグを抜いてから、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

項目	点検内容	点検の頻度
本体清掃	外装にヒビや割れ等はありませんか？	
電源コード ACアダプター	電源コード、ACアダプターに裂傷、断線はありませんか？	1回／月
	コンセントと電源コードプラグ間にほこりが溜まっていますか？	
	ACアダプターが触れないほど熱くなっていますか？	
出力極板 OV極板	ケーブルやプレート部は破損していませんか？	1回／週
	治療中、ビリビリとした電気的刺激はありませんか？	
	エナジーチェックで「OK」が出ていますか？  22~23ページ参照	
カバー、ベルト	清潔に保たれていますか？	毎日

保証書と同じ内容を下記に記入しておくと点検、修理、消耗品の注文などを依頼されるときに便利です。

製造番号	保証満了日	お買い求めの販売店
	年 月 日	TEL( ) -

製品についてのご相談や修理はお買い求めの販売店へお申し付けください。

または、商品名、製造番号をご確認の上、下記窓口へご連絡ください。

お問い合わせ内容	連絡先
商品情報やお取り扱いについて	TEL: 0877-45-5333(代) FAX: 0877-45-1881
修理などアフターサービスについて	TEL: 0877-45-3200 FAX: 0877-45-3600

● 受付時間：午前9:00～午後6:00 月曜～金曜まで（土日祝日及び弊社休日指定日を除く）

製造販売元・製造元

レルテック医療器株式会社

〒762-0025 香川県坂出市川津町3795番地1  
TEL (0877) 45-5333(代) FAX (0877) 45-1881  
<https://reltec.co.jp>

reltec

# 取扱説明書

電位治療器

レルテック MD21

(エムディー21)

医療機器認証番号

302ABBZX00088000



## ご使用前に必ずお読みください

このたびはレルテックMD21をご購入いただき、誠にありがとうございます。  
ご使用になる前に本書をよくお読みになり、本機を正しくお使いください。  
なお、お読みになった後は、保証書とともに大切に保管してください。

## もくじ

### はじめに

1. 安全上のご注意	3
2. 構成	6
3. 本体各部の名称と機能	7
4. ご使用上の注意	8

### ご使用前の準備

1. 出力極板ACと0V極板BD/YDを接続する	10
2. スパイラルチューブを巻く	11
3. カバーを取付ける	11
4. ベルトの使い方	11
5. 電源コードとACアダプターを接続する	12
6. 絶縁マットを敷く	13
7. 使用時間のめやす	13

### 出力極板ACと0V極板BD/YDのあて方

1. 0V極板がBD仕様の場合	14
2. 0V極板がYD仕様の場合	16

### 使いかた

1. 基本の操作	18
2. 出力箇所を選択する	19
3. 治療時間を変更する	20
4. 音の大きさを変更する	21
5. 出力極板ACと0V極板BD/YDの取り外し方	21

### エナジーチェック(ENERGY CHECK)

1. 用途	22
2. エナジーチェックの使用方法	22

### お手入れと保管

1. お手入れ方法	24
2. 保管方法	24
3. 治療器の廃棄または譲渡等について	24

### トラブルシューティング

1. エラーコードが表示されたときは	25
2. よくある質問	25
3. 故障かな?と思ったら	26

### 保証とアフターサービス

1. 保証書について	27
2. 消耗品の交換について	27
3. アフターサービスについて	27

### 仕様その他

点検リスト	32
-------	----

## 1. 安全上のご注意

レルテックMD21は、頭痛、肩こり、不眠症、慢性便秘を緩解する電位治療器です。  
尚、日本国内仕様のため、安全上及び法律により、海外ではご使用出来ません。

ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みいただき、正しくご使用ください。  
ご使用者や他の人への危害や物的損害を未然に防止するため必ず守る必要があることを説明しています。



注意を促す記号



してはいけない「禁止事項」



必ずしなければならない「指示事項」



警告

この表示を無視して誤った取扱をすると「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容を示しています。



併用禁忌

次のような医用電気機器や人工臓器などの併用は、影響を与える可能性があるので、使用しないでください。

- 超短波治療器、マイクロ波治療器、電気メスなどの強力な電磁波を放出する装置、強力な磁力線を放出する装置、又はX線を放出する装置との近接した場所での操作(例えば、1m程度の距離)は、電位治療器の制御を不安定にする。
- ペースメーカーや植込み型除細動器などの電磁障害の影響を受けやすい体内植込み型医用電気機器
- 心電計などの装着形の医用電気機器
- 人工心肺などの生命維持用医用電気機器
- 人工中耳や人工内耳、金属製の人工心臓弁など



禁止

- 乳幼児、子供、自分で意思表示できない方は、おひとりでの使用はしないでください。
- 身体に異常を感じたときには使用を直ちに中止し、医師に相談してください。
- 出力極板や0V極板が濡れているときには、使用しないでください。
- 治療中は電撃が生じる可能性があるため、第三者又は周囲の電気機器に絶対に触れないようにしてください。又、操作者は治療中の人と機器本体に同時に触れないようにしてください。
- 次のような症状を起こした場合には、直ちに使用を中止し、医師に相談してください。  
天然ゴムはかゆみ、発赤、じん麻疹、むくみ、発熱、呼吸困難、喘息様症状、血圧低下、ショックなどのアレルギー性症状をまれに起こすことがあります。
- 他の機器に隣接させてまたは積み重ねて使用すると誤動作する可能性があるため、そのような使用はしないでください。
- 電磁工ミッショニ、電磁イミュニティへの適合に影響を与える可能性がある付属品として電源コード、ACアダプター、出力極板AC、0V極板BDまたはYDが該当します。  
当社の付属品(電源コード、ACアダプター、出力極板AC、0V極板BD/YD)以外を使用すると電磁工ミッショニが増加もしくは電磁イミュニティが減少し誤作動がおこりうる可能性があるため、当社が提供する付属品(電源コード、ACアダプター、出力極板AC、0V極板BD/YD)以外は使用しないでください。
- 携帯形のRF通信機器(アンテナケーブル及び外部アンテナなどの周辺機器を含む)は、製造業者によって規定されたケーブルを含めて、レルテックMD21のどのような部分からも30cm(12インチ)以上離して使用することが望ましい。そうでないと、この機器に性能の低下がもたらされることがあります。

## ⚠ 警告

この表示を無視して誤った取扱をすると「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容を示しています。



分解禁止

- 本体の内部は、高電圧が発生しています。  
絶対にケースをあけないでください。
- 本体及び付属品の分解・修理・改造をしないでください。

## 🚫 禁忌・禁止

以下に示す人で医師が不適当と判断した場合、使用しないでください。

1. 急性疾患のある人
2. 悪性腫瘍のある人
3. 心臓疾患のある人(心臓に障害のある人)
4. 高熱疾患のある人  
体温38°C以上(有熱期)の人  
(急性炎症症状〔倦怠感、悪寒、血圧変動など〕の強い時期にある人。衰弱している人)
5. 妊娠している人。妊娠初期の不安定期又は出産直後の人
6. 安静を必要とする人
7. 脊椎の骨折、捻挫、肉離れなど急性(疼痛性)疾患の人
8. 糖尿病などによる高度な末梢循環障害による知覚障害のある人
9. 皮膚知覚障害、又は皮膚に異常(感染症、創傷など)のある人
10. 低温やけどをしやすい人
11. その他重篤な人

## ⚠ 注意

この表示を無視して誤った取扱をすると「人が傷害を負う可能性または物的損害が想定される」内容を示しています。



電源プラグを  
コンセント  
から抜く

- 异常な臭い、異常な音、煙が発生する等機器の異常に気付いたときは電源スイッチを切り、電源コードのプラグをコンセントから抜いて使用しないでください。

- 製品を落としたり、倒したり、強い衝撃が与えられたときは、すぐに電源スイッチを切り、電源コードのプラグをコンセントから抜いて使用しないでください。

※ 上記の場合は、お買い求めの販売店にご連絡ください。

- 雷が発生しているときは、使用を中止し、電源コードのプラグをコンセントから抜いてください。  
停電のときは、直ちに電源スイッチを切ってください。



火気禁止

- たばこなどの火気を近づけないでください。
- 本体や付属品を暖房器具に近づけないでください。  
火災や故障のおそれがあります。



- 風呂場など、水分や湿気の多い場所では使用しないでください。  
感電などのけがや故障のおそれがあります。
- 本器及び付属品(エナジーチェック、出力極板AC、OV極板BD/YD)を水につけて洗わないでください。  
液体が内部に入ったときは、すぐに電源スイッチを切り、電源コードのプラグをコンセントから抜いて使用しないでください。
- 濡れた手で製品を扱わないでください。感電などのけがや故障のおそれがあります。



- 電源コード・ACアダプターは、束ねないでください。
- 電源コード・ACアダプターの上に家具などの重いものをのせないでください。
- 電源コード・ACアダプターを引っ張ったり、ねじったりしないでください。
- 電源コード・ACアダプターを、操作ができない場所に置かないでください。  
感電などのけがや故障のおそれがあります。

## 表示マーク説明



高電圧注意



BF形装着部



交流



取扱説明書参照

## 2. 構成

※下記の内容をご確認いただき、チェック  をお付けください。

本体 (1台)  保証書 (1部)

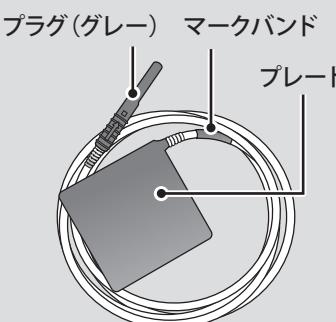
取扱説明書 (1部)

### 付属品(保証対象外)

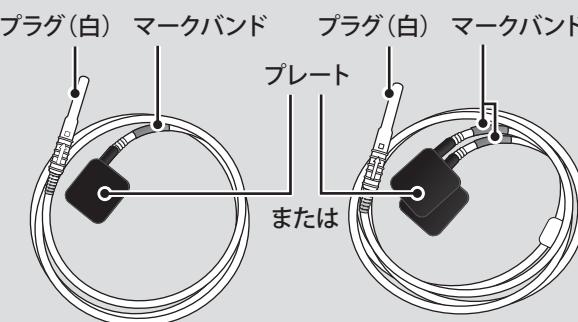
※1 フェライトコアは絶対に外さないでください。



電源コード (1本)



出力極板AC (2本)  
マークバンド:赤色、青色



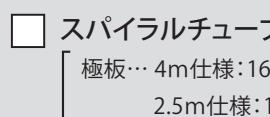
0V極板BDまたはYD (2本)  
マークバンド:赤色、青色



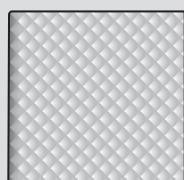
ACアダプター (1個)



接地アダプター (1個)



スパイラルチューブ  
[ 極板…4m仕様:16本  
2.5m仕様:10本 ]



絶縁マット (1枚)



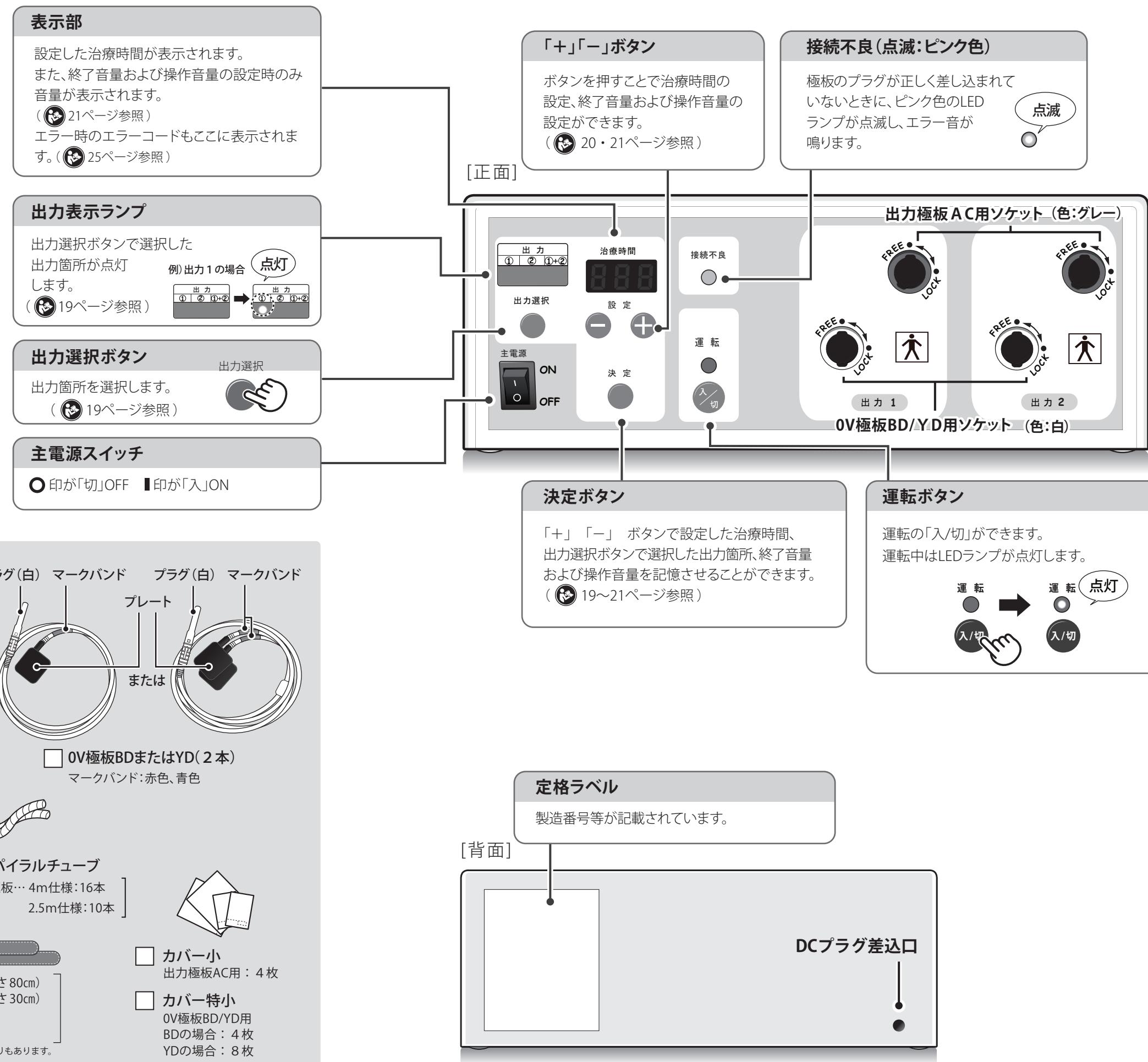
エナジーチェック (1個)



ベルト  
[ 中…1本 (長さ80cm)  
特小W…1本 (長さ30cm)  
BD仕様…2本  
YD仕様…4本 ]

※大 (長さ120cm) : 別売りもあります。

## 3. 本体各部の名称と機能



## 4. ご使用上の注意

### ⚠ ご使用前の注意

- !  
全てのコードは容易に着脱しないよう、正しく確実に接続してください。  
電源コード、ACアダプター、出力極板ACおよび0V極板BD/YDは正しく確実に接続してください。  
しばらく使用しなかった機器を使用するときは、機器が正常かつ安全に作動することを確認してください。  
出力極板ACと0V極板BD/YDを接続し、スイッチやボタン、タイマーが正常に作動していることを確認してください。また、エナジーチェックで本体からの出力を確認してください。  
必ず出力極板ACと0V極板BD/YDを正しく装着してから治療を開始してください。  
治療を開始してから出力極板ACや0V極板BD/YDを装着すると、不快な電気的刺激を感じる場合があります。  
また、治療中に出力極板ACや0V極板BD/YDを外す場合は、治療を停止させてから行ってください。  
手が濡れているときや、塗り薬等が塗られているときは、必ず拭き取ってからご使用ください。  
出力極板ACや0V極板BD/YDが濡れている場合は使用しないでください。  
ドライヤーを使用したり、ストーブにあてるなど、高温での乾燥は絶対にしないでください。  
出力極板ACや0V極板BD/YDを傷める原因になります。  
出力極板ACや0V極板BD/YDが少しでも傷んでいるときは、使用しないで新しいものに交換してください。  
ご自身で修理をしたりそのまま使用すると危険ですので、必ずお買い求めの販売店もしくは当社までご相談ください。

- 🚫 以下のような場所での設置や使用はしないでください。
  - 振動の多い場所や傾斜、衝撃のある不安定な場所
  - 直射日光の当たる場所や暖房器具の近くなど温度が高くなる場所
  - ほこり、塩分、硫黄等による悪影響のある場所
  - 強電磁界が発生するMRIや超短波治療器、高周波メスなどの近傍
  - 電磁波の発生するマイクロ波治療器からの直射照射を受ける場所
  - 他の電気製品の近傍  
機器の上に物を置いたり、機器の近くに他の電気製品を置いたりしないでください。  
出力極板ACおよび0V極板BD/YDが傷むため、過度な温度（電気毛布などの上やこたつの中）で使用しないでください。  
金属繊維などの導電性物質を含む布団とともに使用しないでください。  
各極板プラグの本体差込口ソケットに金属棒などを挿入しないでください。  
本体や付属品のそばに花瓶や水槽など、液体の入った容器を置かないでください。  
液体が内部に入ると火災や故障のおそれがあります。  
出力極板ACおよび0V極板BD/YDを装着する際は、過度の締め付け等により曲げすぎないようにしてください。  
曲げすぎると破損の原因になります。  
出力極板ACおよび0V極板BD/YDのケーブルに無理な力が加わらないようにしてください。  
使用時および保管時に、極端に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、小さく束ねたり、重いものを乗せたり挟み込んだりしないでください。断線の原因になります。

### ⚠ ご使用中の注意

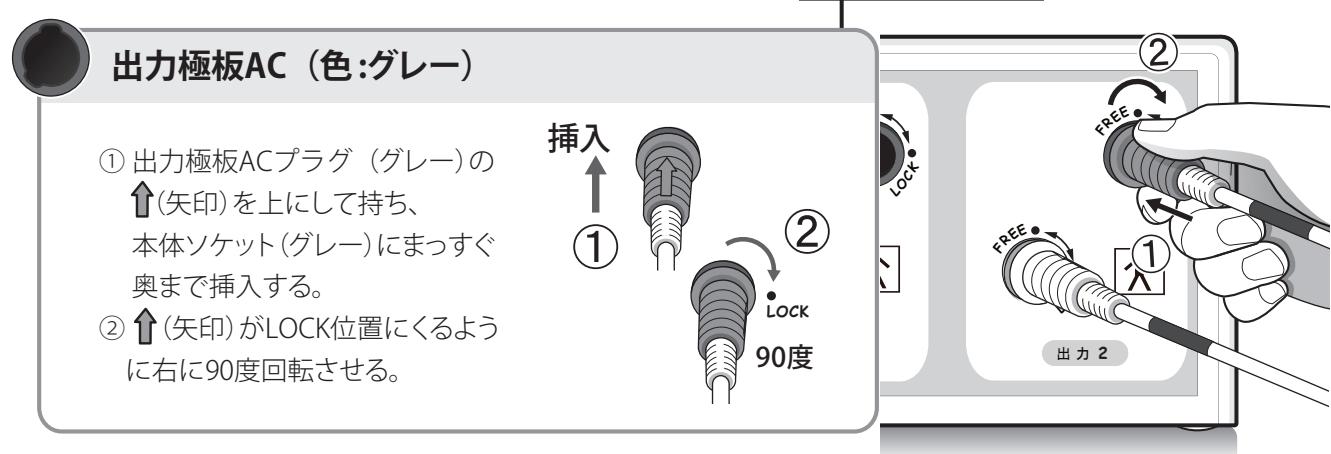
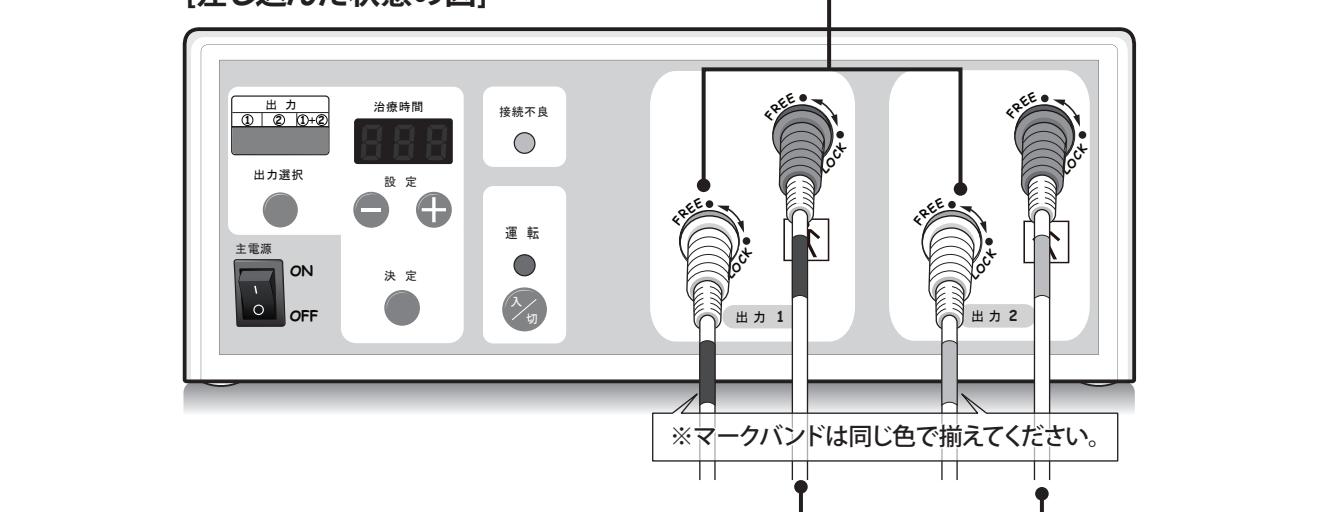
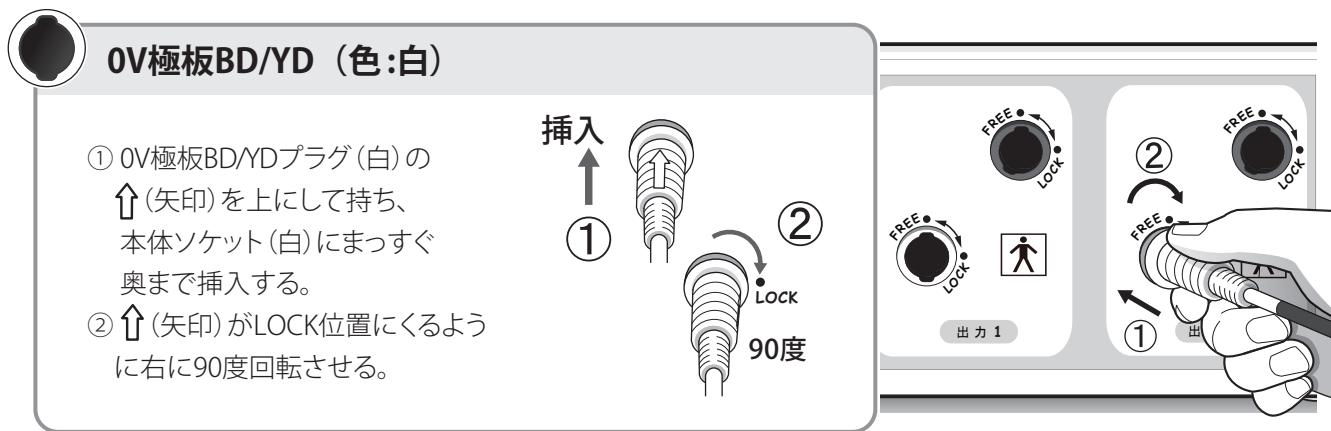
- !  
使用中に身体に異常を感じたときは直ちに使用を中止し、医師の指示に従ってください。  
機器が故障した場合は、直ちに使用を中止し、電源スイッチを切ってください。  
また、勝手に修理などをせず、販売店またはレルテック医療器株に連絡してください。  
使用の途中で身体から出力極板ACや0V極板BD/YDを外すときは、必ず運転を停止してください。  
  
🚫 定められた使用時間を超えて使用しないでください。  
治療中は身体および出力極板ACや0V極板BD/YDに金属（ベッド、椅子、貴金属等）を接触させないでください。

### ⚠ ご使用後の注意

- !  
使用後は必ず電源スイッチを切ってください。  
治療終了後はベルトを外し、出力極板AC、0V極板BD/YDを離した状態で自然乾燥させてください。  
本体を移動させるときは必ず電源コード、ACアダプター、出力極板ACおよび0V極板BD/YDを外し、両手でしっかりと持ってください。  
本体を誤って落としたときは必ず販売店に連絡し、点検を受けてください。  
外観上異常がなく正常に作動したとしても、後で故障や事故につながるおそれがあります。

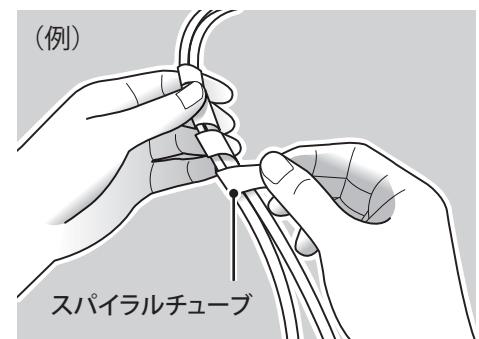
## 1. 出力極板ACと0V極板BD/YDを接続する

機器本体が動かないように本体を押さえながら接続してください。



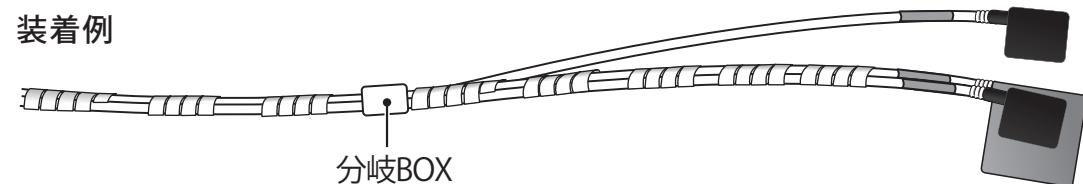
## 2. スパイラルチューブを巻く

出力極板ACと0V極板BD/YDのケーブル同士を付属のスパイラルチューブで巻いて束ねてください。



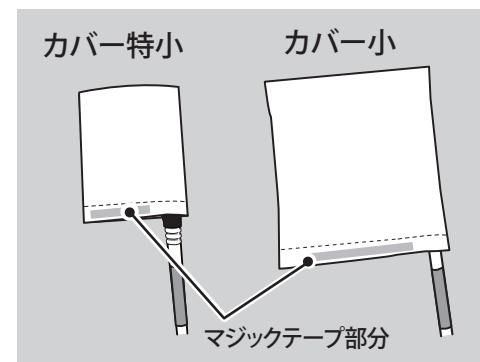
### 例：0V極板がYD 4 mの場合

スパイラルチューブ16本(8本×2セット)  
装着例



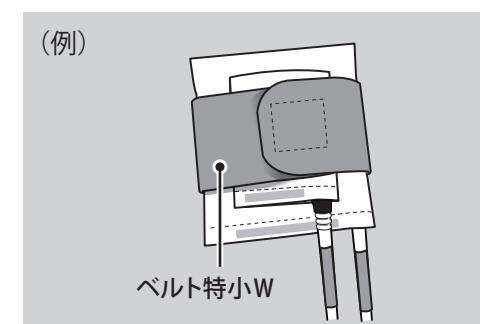
## 3. カバーを取付ける

- 1) 袋形状カバーの一辺のマジックテープを開放してください。
- 2) プレート部を挿入し、マジックテープを閉じてください。



## 4. ベルトの使い方

出力極板ACと0V極板BD/YDを身体に装着するための付属のベルトを用意してください。  
身体に装着しやすいように、伸縮性と固定のためのマジックテープが備わっています。

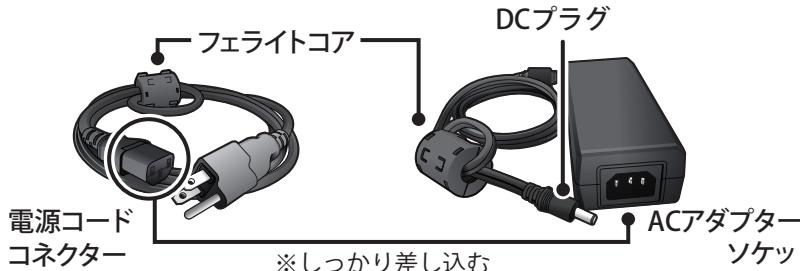


## 5. 電源コードとACアダプターを接続する

1) ACアダプターのソケットと電源コードのコネクターを接続してください。

差し込み不足にならないよう、しっかり接続してください。

ACアダプター用ソケットは、脱落防止のため差込口が固めにつくられています。



2) ACアダプターのDCプラグを本体背面のDCプラグ差込口に差し込んでください。

差し込み不足にならないよう、しっかり接続してください。



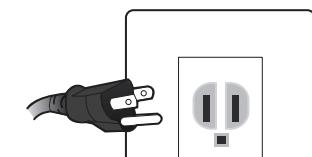
3) AC100Vコンセントに電源コードを差し込んでください。

ゆるみや外れが生じないようにしっかりと差し込んでください。

ご使用になるコンセントが

① 3Pの場合

接地アダプターは不要です。

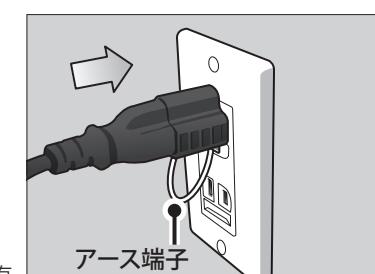


② 2Pの場合

3Pプラグに付属の接地アダプターを接続し、

アース端子をアースターミナルに接続してください。

※アースターミナルがない場合は販売店にご相談ください。



警告 電撃の危険を回避するために、この機器は保護接地を備えた電源だけを使用してください。



電源コード及びACアダプターに取付けているフェライトコアを外さないでください。

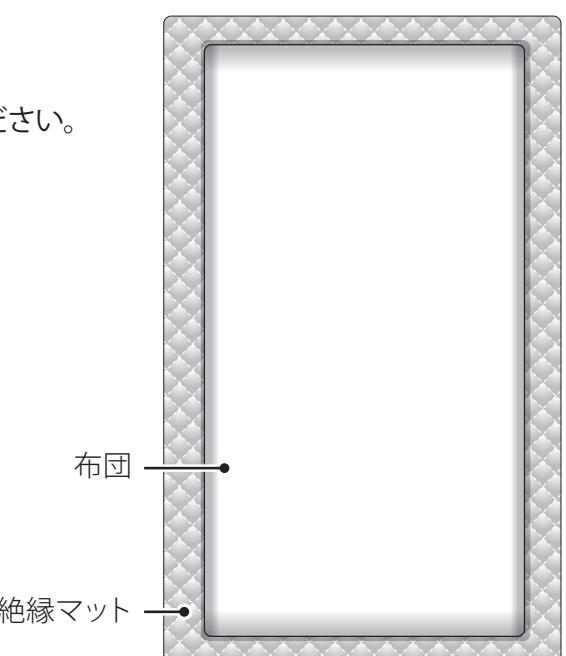
外した場合、他の機器に悪影響を及ぼす恐れがあります。

禁止

万が一、フェライトコアを外す等の誤使用により生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いません。

## 6. 絶縁マットを敷く

(例)



絶縁マットを治療ベッドや布団の上または下に敷いてください。

治療する部屋の室温を適温に調節してください。

## 7. 使用時間のめやす

### 標準的な治療例

期 間	1回の治療時間
初日～3日目	5～10分
4日目～7日目	10～15分
8日目～	15～30分

1日の治療回数  
**1～5回**  
(めやす)

1回の治療時間  
**5～30分**  
(めやす)

過剰使用は一時的な身体のだるさを感じるおそれがあります。  
だるさを感じたときは、1回の治療時間を短くしてください。

① 上記の表は標準的な治療の一例です。

体調や年齢、体力、健康状態に合わせて治療時間、治療回数を適宜調整してください。

② 1ヵ月以上使用しなかったときは、短時間(5～10分)で使用し、回数を重ねながら少しづつ身体を慣らしてください。

③ 続けて使用せず、治療と治療の間は1時間以上あけてください。

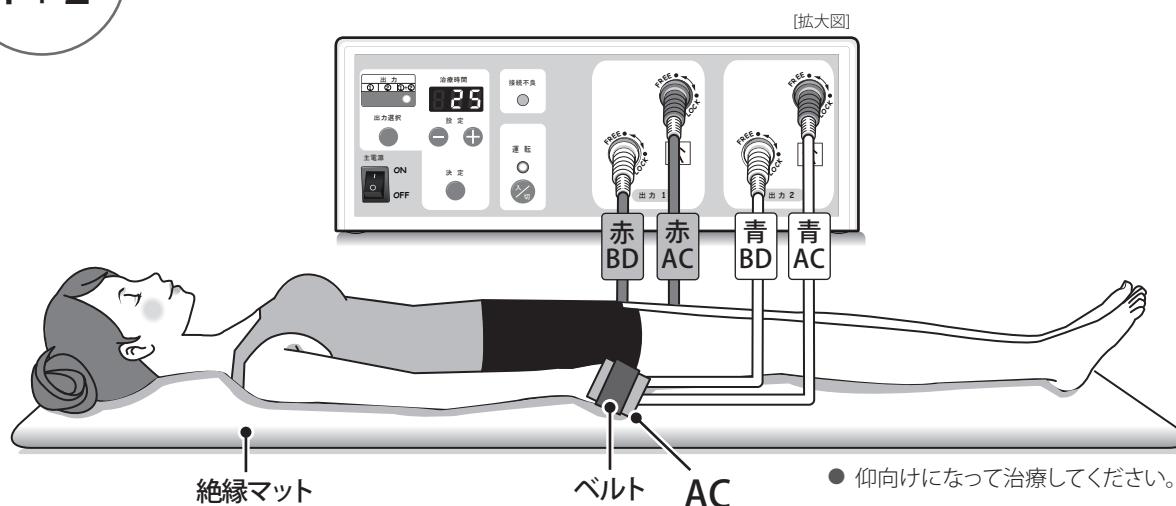
# 出力極板ACと0V極板BD/YDのあて方

## 1. 0V極板がBD仕様の場合

治療を開始する前に、必ず出力極板ACと0V極板BDを付属のベルトで適切に装着してください。

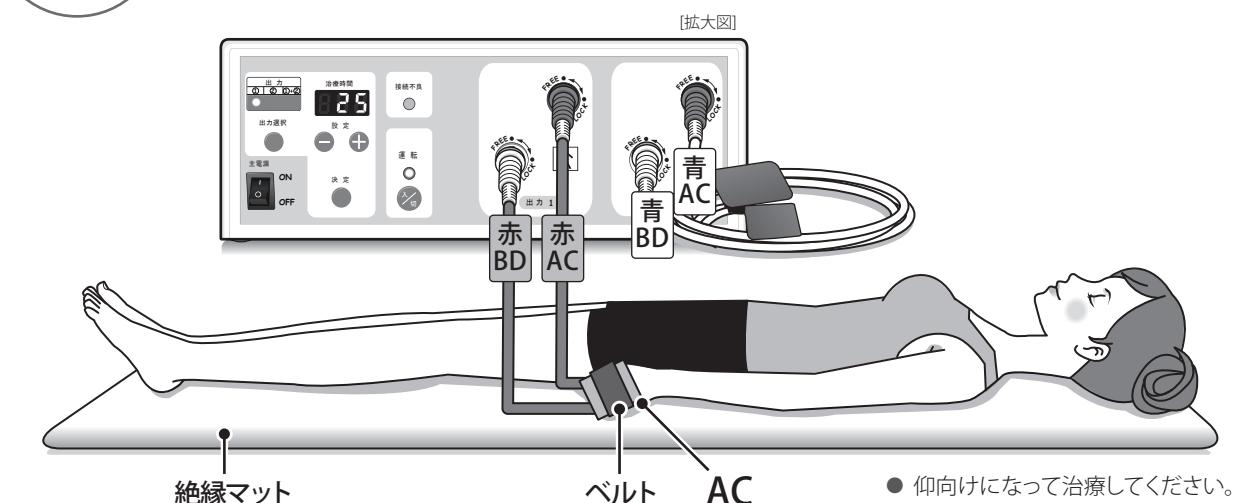
出力  
1+2

両手ともに、手背に出力極板AC、手掌に0V極板BDをあてた状態



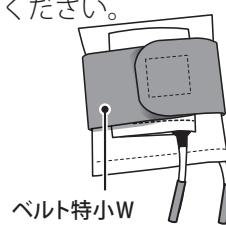
出力1  
または  
出力2

手背に出力極板AC、手掌に0V極板BDをあてた状態

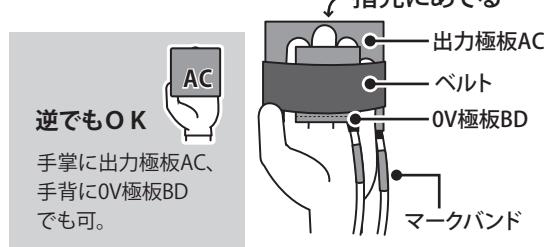


### 装着方法

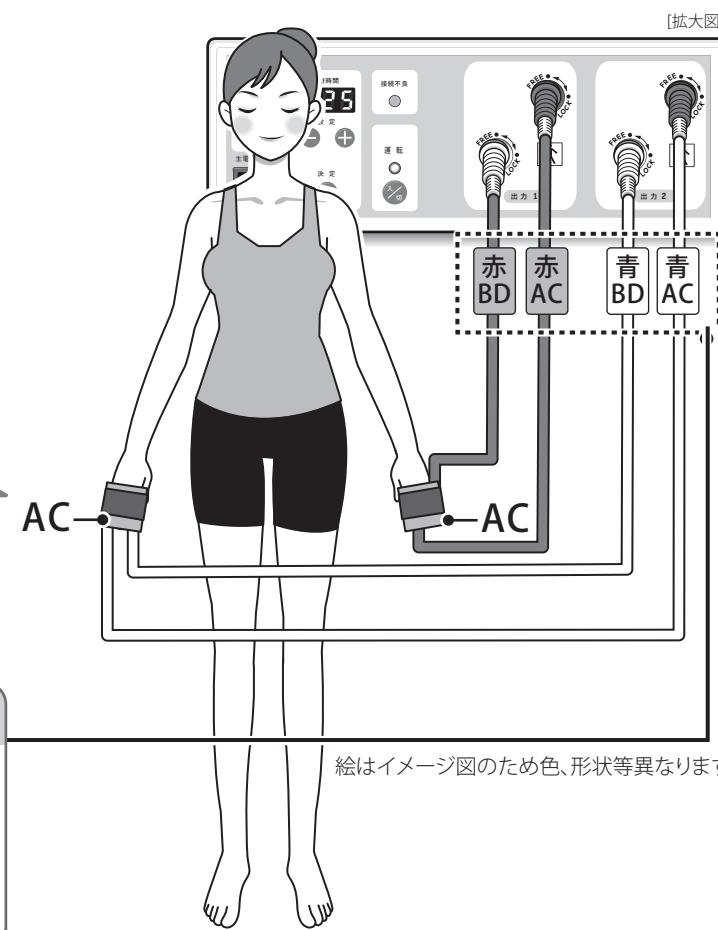
- ① 出力極板ACと0V極板BDを合わせてベルトを巻いてください。



- ② 出力極板ACと0V極板BDの間に手を入れてください。



- 出力極板ACと0V極板BDがお互いに触れないようにあててください。



### 赤色、青色マークバンド

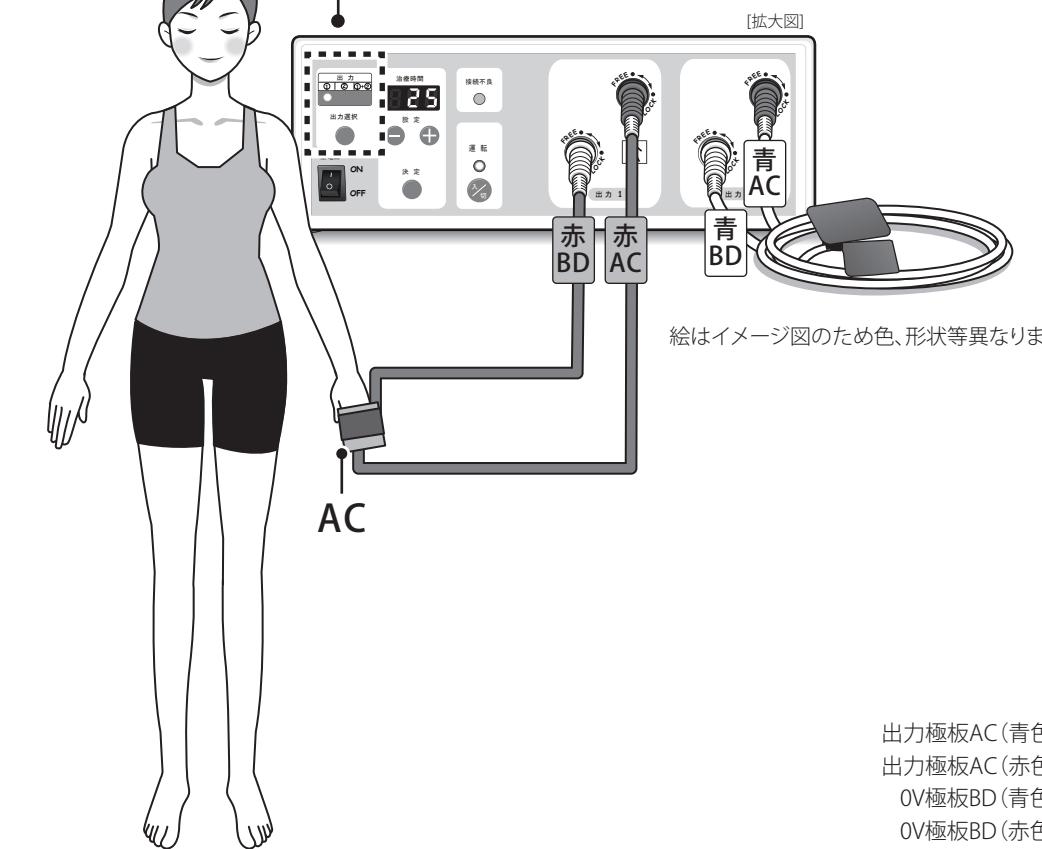
出力極板ACと0V極板BDのマークバンドの色は必ず揃えてください。

出力1、出力2のどちらに赤、または青を挿入しても構いません。

出力選択ボタンを押して「出力1」または「出力2」を選択して下さい。

出力1、出力2のどちらを選択しても効果は同じです。  
しかし治療器の構造上、機械的な負担を軽減するために  
出力1、出力2を偏りなく使用されることをお奨めします。

※図は「出力1」を設定した場合



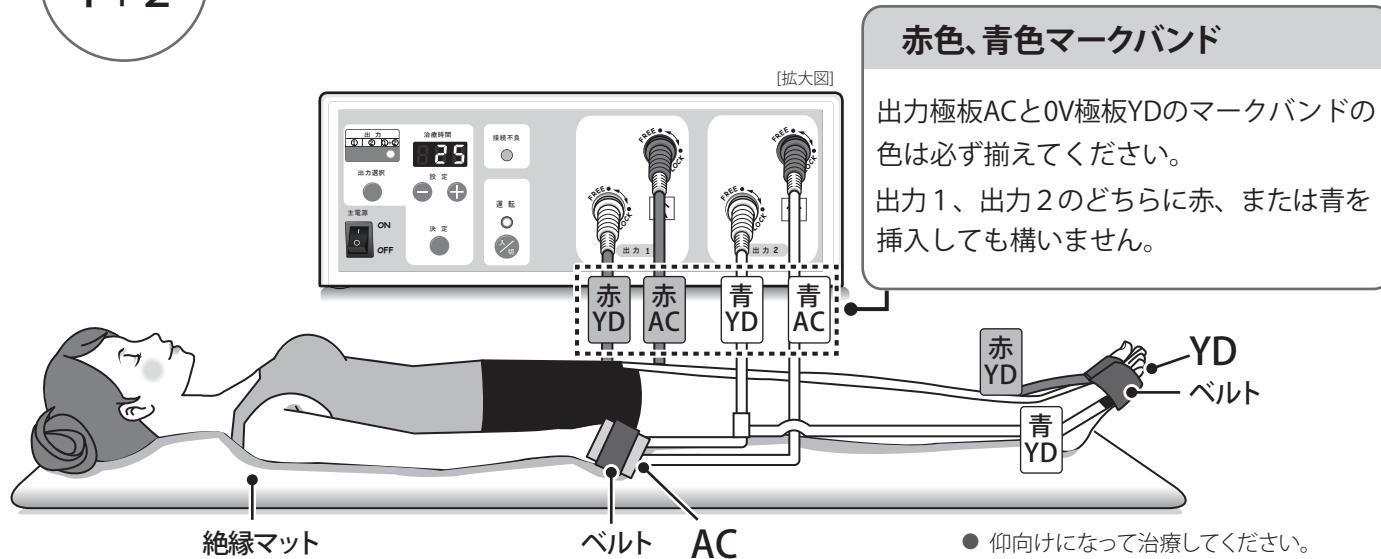
出力極板AC(青色マークバンド) ➔ 青AC  
出力極板AC(赤色マークバンド) ➔ 赤AC  
0V極板BD(青色マークバンド) ➔ 青BD  
0V極板BD(赤色マークバンド) ➔ 赤BD

## 2. 0V極板がYD仕様の場合

治療を開始する前に、必ず出力極板ACと0V極板YDを付属のベルトで適切に装着してください。

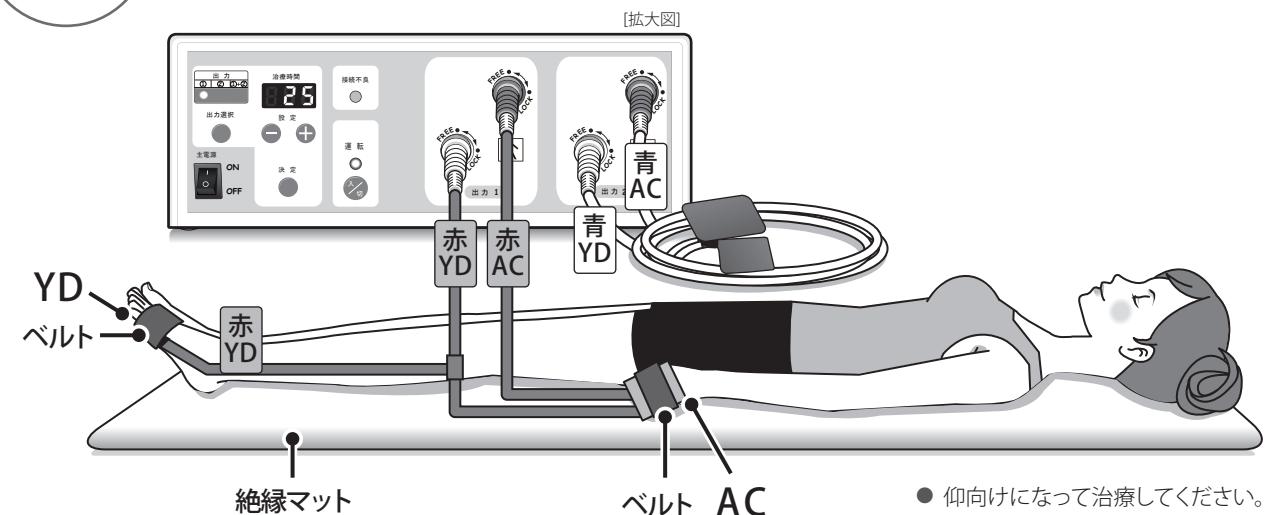
出力  
1+2

両手足ともに、手背に出力極板AC、手掌と足の裏に0V極板YDをあてた状態



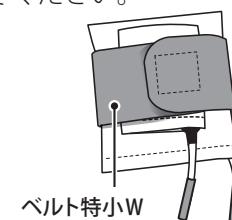
出力1  
または  
出力2

手背に出力極板AC、手掌と足の裏に0V極板YDをあてた状態

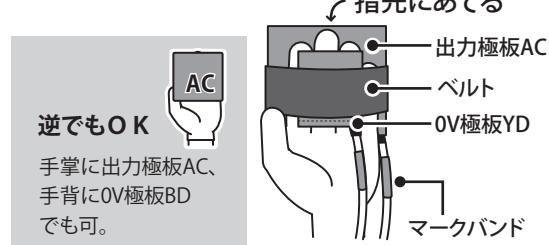


### 装着方法

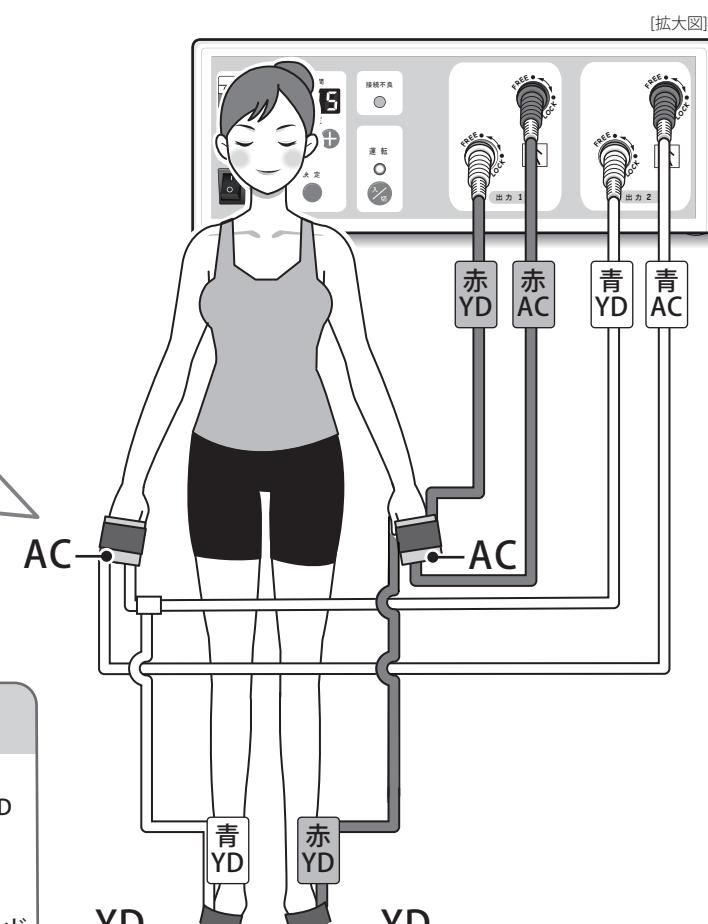
- ① 出力極板ACと0V極板YDを合わせてベルトを巻いてください。



- ② 出力極板ACと0V極板YDの間に手を入れてください。

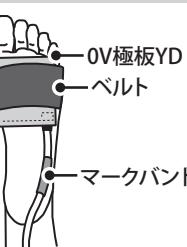


- 出力極板ACと0V極板YDがお互いに触れないようにあててください。



### 足の装着方法

もう片方の0V極板を足に装着してください。



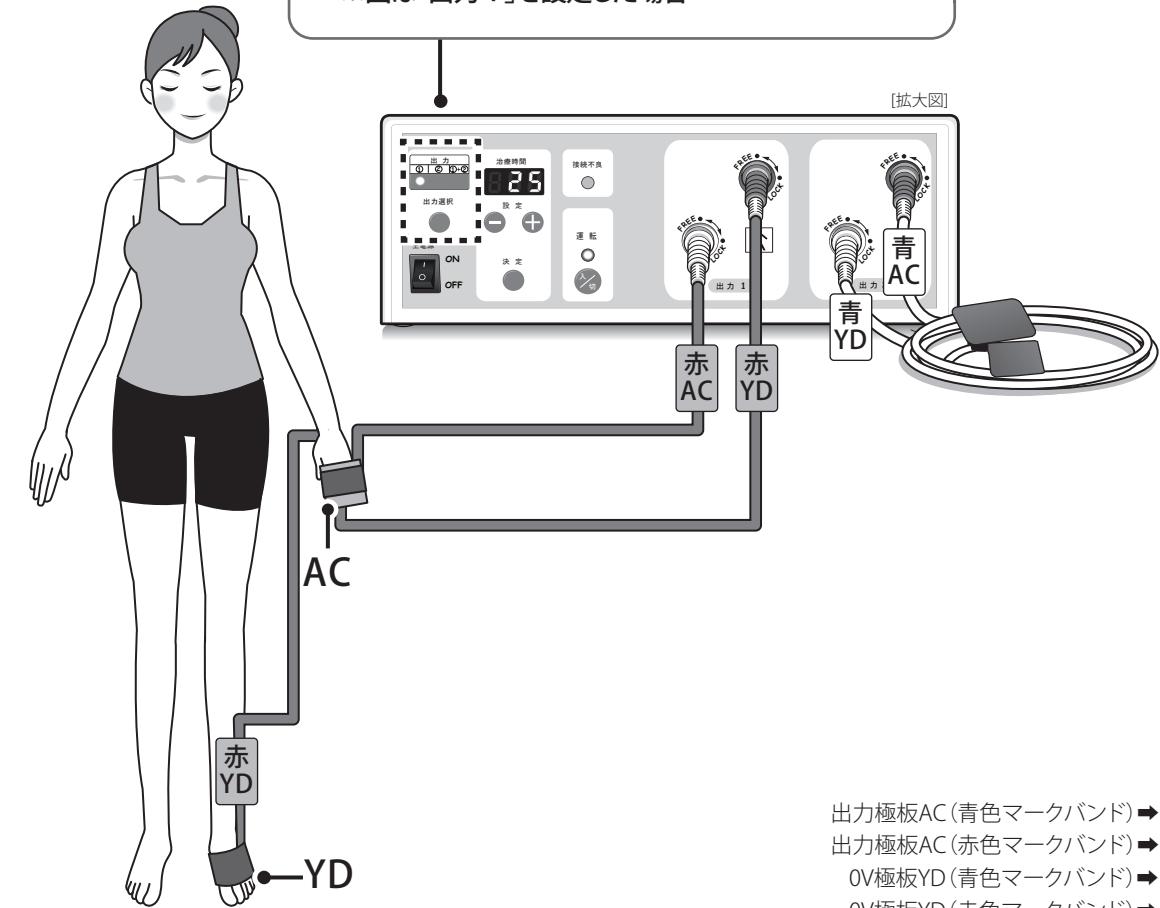
足の裏と甲、どちらにあててもかまいません。(フィットする方にあててください。)

絵はイメージ図のため色、形状等異なります。

出力選択ボタンを押して「出力1」または「出力2」を選択してください。

出力1、出力2のどちらを選択しても効果は同じです。  
しかし治療器の構造上、機械的な負担を軽減するために出力1、出力2を偏りなく使用されることをお奨めします。

※図は「出力1」を設定した場合



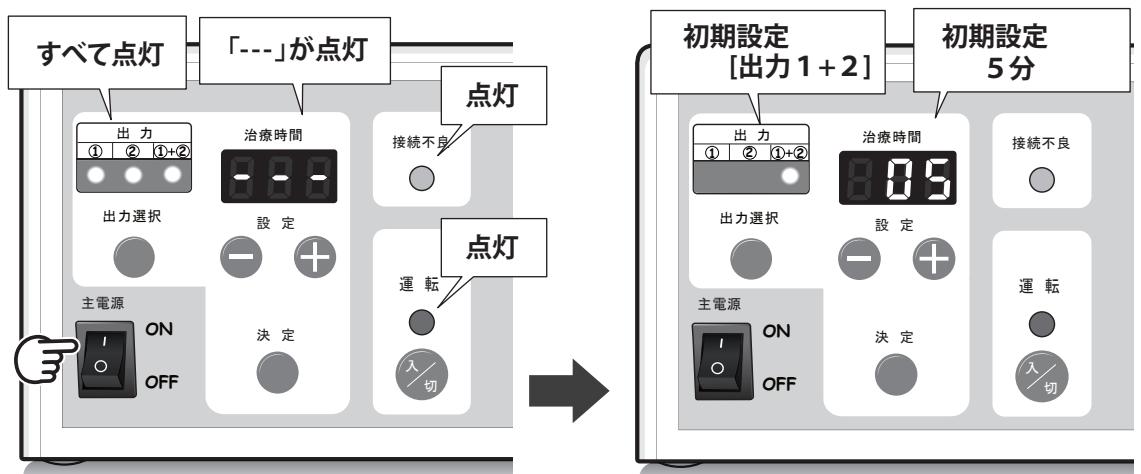
出力極板AC(青色マークバンド) → 青AC  
出力極板AC(赤色マークバンド) → 赤AC  
0V極板YD(青色マークバンド) → 青YD  
0V極板YD(赤色マークバンド) → 赤YD

## 1. 基本の操作

### (1) 電源を入れる

本体前面にある主電源スイッチを「ON」にしてください。

すべてのLEDおよび表示部に「---」が点灯した後、出力箇所と治療時間が表示されます。



**注意** 電源の「ON」「OFF」を繰り返して速く行うと電圧が不安定な状態となり、記憶されたデータが消えてしまうおそれがありますのでご注意ください。

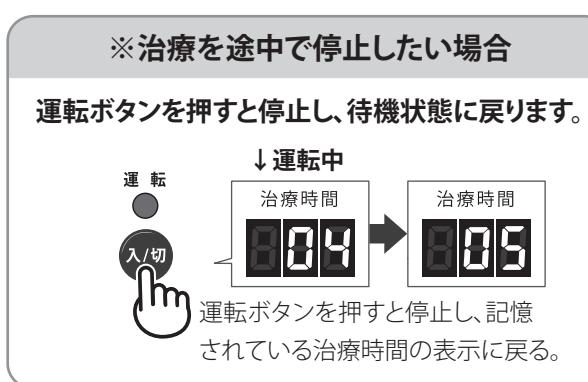
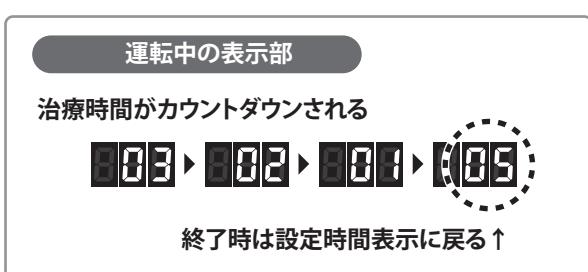
### (2) 治療を開始する

※ 出力箇所・治療時間変更する場合は19~20ページをご覧ください。

運転ボタンを押してください。

運転中は運転ボタン上部のLEDが点灯します。

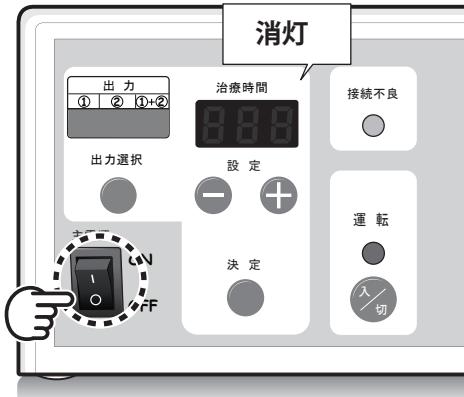
治療が終了すると終了音が鳴り、運転を停止します。



### (3) 主電源を切る

本体前面の主電源スイッチを「OFF」にしてください。

出力極板と0V極板を身体から外してください。



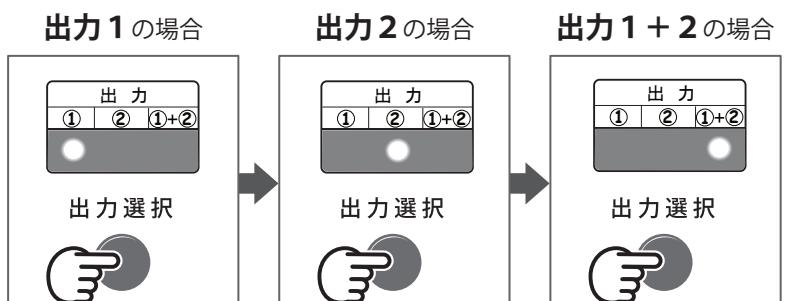
## 2. 出力箇所を選択する

初期設定値は「出力 1+2」

### (1) 出力箇所を選ぶ

出力選択ボタンを押して、出力箇所を選択してください。

ボタンを押すごとに「出力 1」→「出力 2」→「出力 1+2」の順に切り替わります。



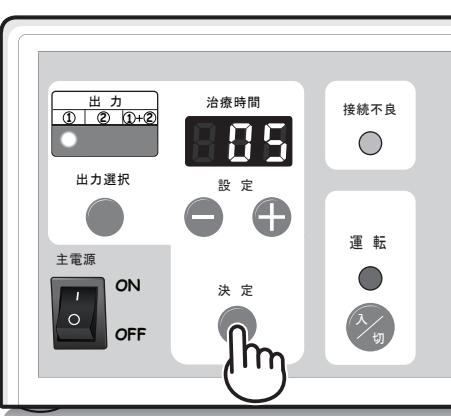
### (2) 変更した出力箇所を本体に記憶させる

決定ボタンを押してください。

表示されている出力箇所が記憶されます。

「今回だけ出力箇所を変えたい」とき  
→決定ボタンを押す必要はありません。

「毎回この出力箇所で治療したい」とき  
→決定ボタンを押して本体に記憶させると、次回使用時から出力箇所を選択する必要がありません。

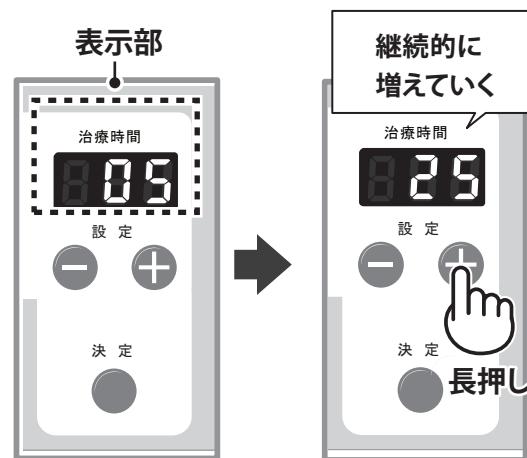


### 3. 治療時間を変更する

初期設定値は「5分」

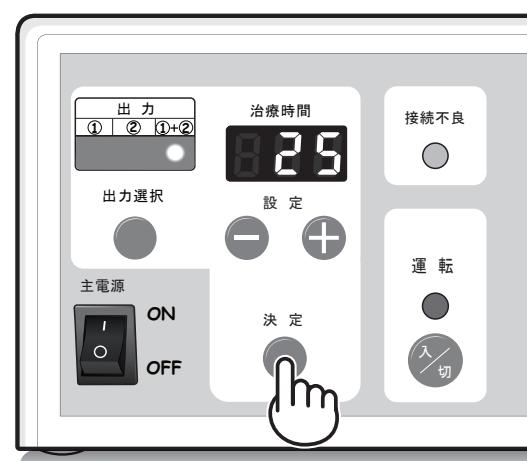
#### (1) 治療時間を設定する

+ボタンで治療時間を設定します。  
設定可能時間は1~99分です。  
0分は設定できません。  
ボタンの長押しで数字の増減が継続的にできます。  
表示部に治療時間が表示されます。



#### (2) 変更した治療時間を本体に記憶させる

決定ボタンを押してください。  
表示されている治療時間が記憶されます。



「今回だけ治療時間を変えたい」とき  
→決定ボタンを押す必要はありません。

「毎回この治療時間で治療したい」とき  
→決定ボタンを押して本体に記憶させると、  
次回使用時から治療時間を設定する必要がありません。

出力箇所と治療時間を両方とも同時に変更した場合、決定ボタンを押すとどちらの内容も記憶されます。

どちらか片方だけを記憶させたいときは記憶させたい方を先に設定し、決定ボタンを押したあともう一方を設定してください。

「治療時間だけ記憶させたい」とき  
→治療時間を設定後、決定ボタンを押してから  
出力箇所を選択

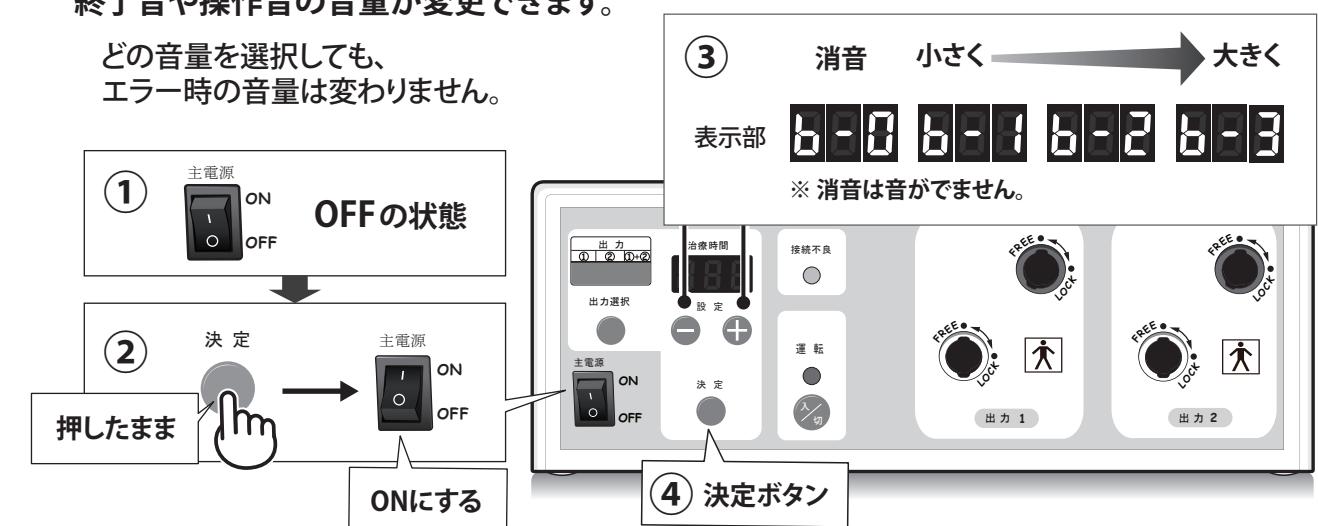
「出力箇所だけ記憶させたい」とき  
→出力箇所を設定後、決定ボタンを押してから  
治療時間を設定

### 4. 音の大きさを変更する

初期設定値は「b-2」

終了音や操作音の音量が変更できます。

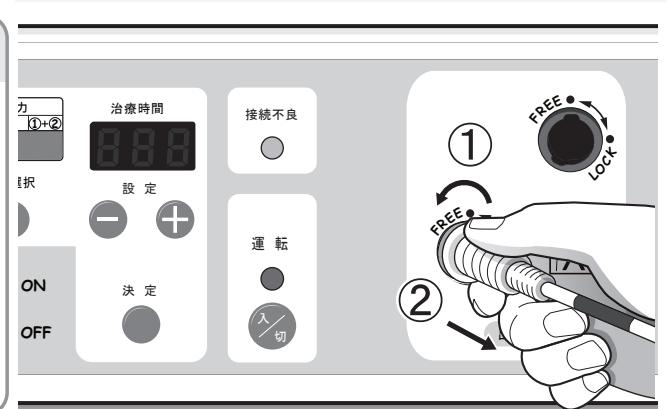
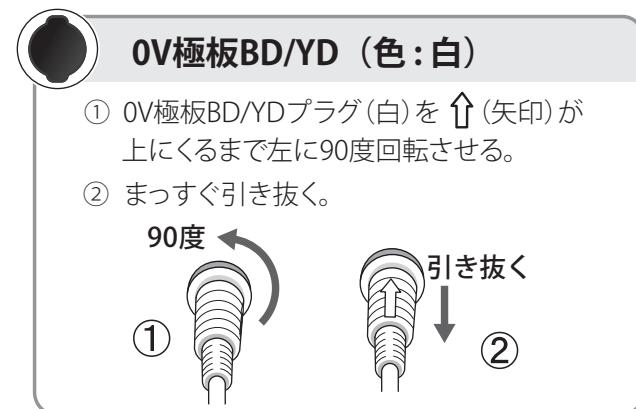
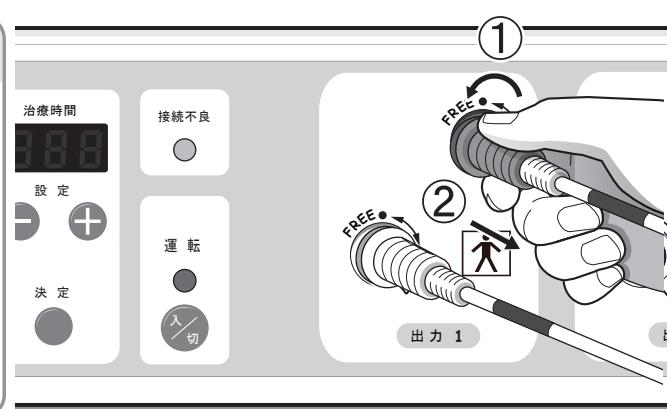
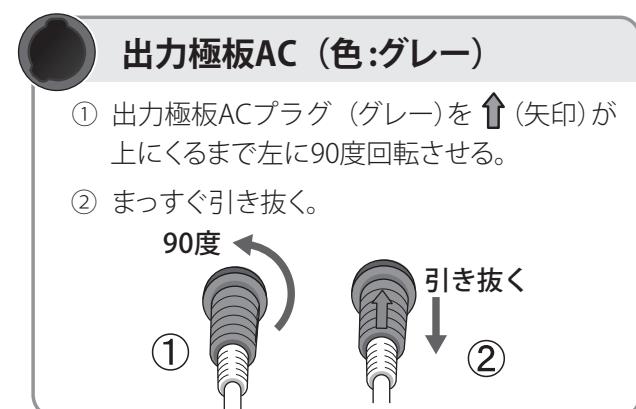
どの音量を選択しても、  
エラー時の音量は変わりません。



- ① 主電源がOFFになっていることを確認してください。
- ② 決定ボタンを押したまま主電源スイッチをONにします。  
表示部に音量が表示されます。(b-0~b-3)  
※ 決定ボタンは、音量が表示されてから手を離してください。
- ③ +ボタンで音量を大きく、-ボタンで音量を小さくできます。音量は4段階あります。
- ④ 決定ボタンを押して、設定した音量を記憶させます。

### 5. 出力極板ACと0V極板BD/YDの取り外し方

機器本体が動かないように本体を押さえながら取り外してください。



# エナジーチェック (ENERGY CHECK)

## 1. 用途

エナジーチェックは、レルテックMD21の使用前の点検に用いる検査機器です。

エナジーチェックは、本体からの出力有無を確認するものです。

極板の消耗・劣化状態を確認する為のものではありません。

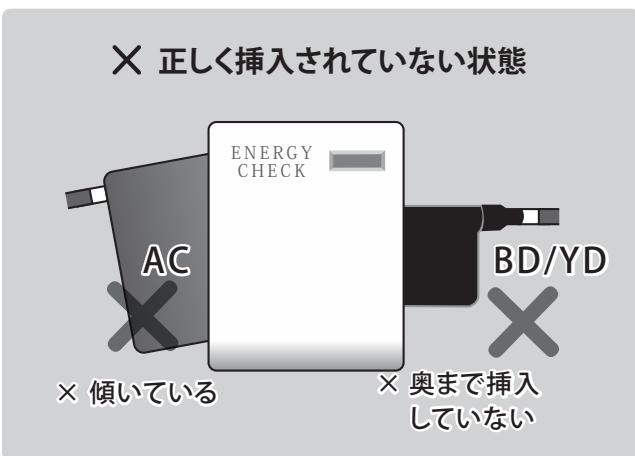
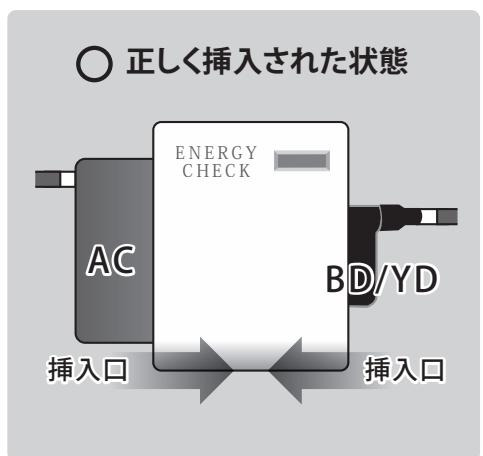
極板から聞こえる音の大きさは、環境等により異なりますので出力の判断基準にはなりません。

## 2. エナジーチェックの使用方法

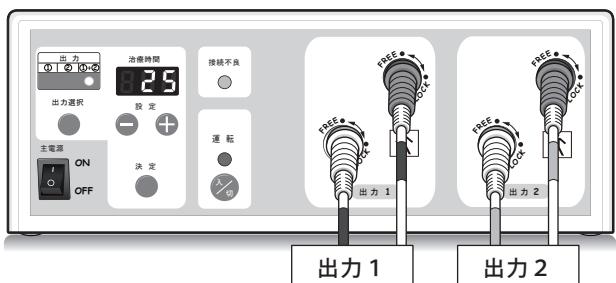
### 1. エナジーチェックに出力極板ACと0V極板BD/YDをセットする。

- 1) 出力極板ACと0V極板BD/YDのカバーを外してください。
- 2) エナジーチェックを水平な場所に置いてください。
- 3) 各挿入口に出力極板ACと0V極板BD/YDのプレートを差し込んでください。

挿入口の奥に当たるまでしっかりと差し込んでください。



0V極板YDにはプレートが2枚あります。どちらか1枚を挿入してください。

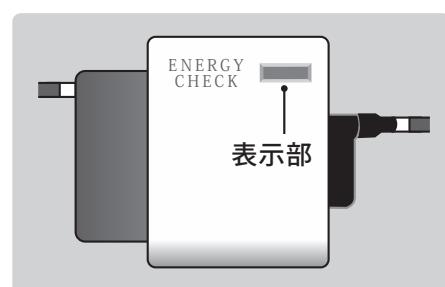


必ず出力1、出力2のセットごとに  
点検してください。

### 2. 表示部が消えていることを確認する。

極板が帯電している場合、表示部が点灯することがあります。

その場合、表示部が完全に消えてから点検してください。



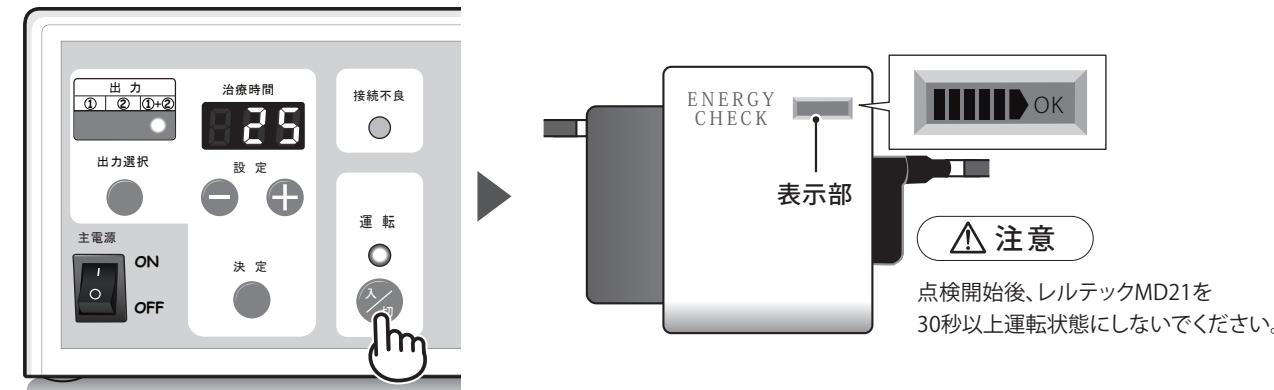
## 3. 点検を開始する。

- 1) レルテックMD21の電源をONにし、運転(入/切)ボタンを押してください。

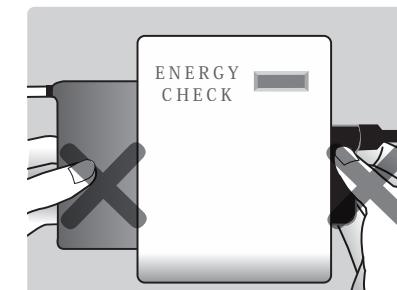
LEDが点灯し、運転が開始されます。

- 2) エナジーチェックの表示部に「OK」が点灯することを確認してください。

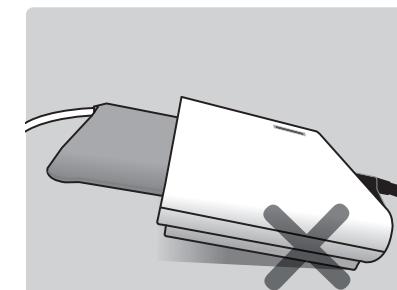
[例:25分設定の場合]



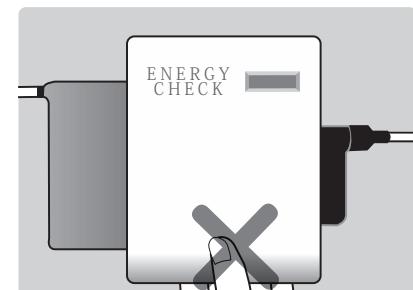
## 次の点にご注意ください



× 手で出力極板ACと0V極板BD/YD  
のプレートを触っている



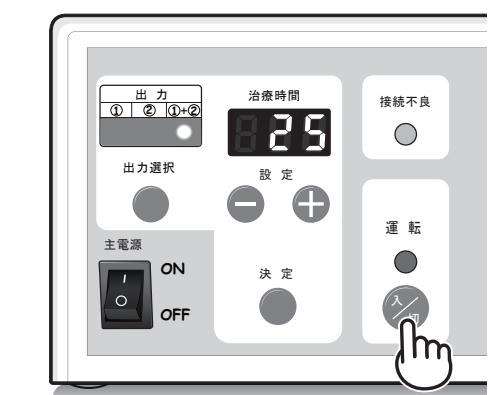
× 不安定な設置をしている



## 4. 点検を終了する。

- 1) 運転(入/切)ボタンを押してレルテックMD21の運転を停止してください。

- 2) 出力極板ACと0V極板BD/YDをエナジーチェックの挿入口から抜き取ってください。



## 1. お手入れ方法

- 本体・絶縁マットは柔らかい布等で乾拭きしてください。  
汚れがひどいときは、薄めた中性洗剤をしみこませた布で拭き取ったあと、乾いた布でよく拭き取ってください。
- 出力極板と0V極板は離した状態で自然乾燥させてください。
- ベルトやカバーは汗の成分が付着しますのでこまめに洗濯してください。
- 絶縁マットは陰干しして十分に乾燥させてください。

### ⚠ お手入れ時の注意

- ベンジンやシンナーなどを使用しないでください。
- コード類を取り外すときは、コードを持って引き抜くなど接続部に無理な力を加えないでください。
- 感電のおそれがありますので、お手入れの時は電源コードをコンセントから抜いてください。

## 2. 保管方法

- 次の使用に支障がないように清潔にし、湿気の少ない場所に保管してください。
- 付属のカバー等は洗濯をし、湿気の少ない場所に整理して保管してください。
- 本体にほこり、虫等が入らないようにしてください。
- 電源コードプラグの埃を取り除いてください。

### ⚠ 保管時の注意

長期間使用されず再び使用するときは、お買い求めの販売店にご連絡のうえ点検を受けてください。

以下の場所では保管しないでください。

- 火気及び熱源の近く
- 不安定な場所
- 直射日光のあたる場所
- 小児の手が届くところ

## 3. 治療器の廃棄または譲渡等について

- 治療器の廃棄または譲渡等を希望されるときは、安全上及び法律により、お買い求めの販売店にご連絡ください。

## 1. エラーコードが表示されたときは

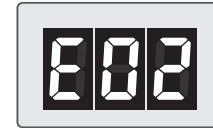
表示部にエラーコードが表示されたときは、出力極板や0V極板の接続不良です。



出力 1 側 出力極板(グレー)  
プラグ差込み不良



出力 1 側  
グレーのプラグを確実に差し込んでください。  
( 10ページ参照)



出力 1 側 0V極板(白)  
プラグ差込み不良



出力 1 側  
白のプラグを確実に差し込んでください。  
( 10ページ参照)



出力 2 側 出力極板(グレー)  
プラグ差込み不良



出力 2 側  
グレーのプラグを確実に差し込んでください。  
( 10ページ参照)



出力 2 側 0V極板(白)  
プラグ差込み不良



出力 2 側  
白のプラグを確実に差し込んでください。  
( 10ページ参照)

上記のエラー時、LEDが点滅してエラー音が鳴ります。

プラグを正しく接続すると、LEDが消灯し、エラーは解除されます。

**エラーを解除しただけでは運転は再開されません。**

運転ボタンを押して治療を再開してください。

治療中のエラーの場合は、治療を停止した時間から再開されます。

## 2. よくある質問

内 容	回 答
出力極板ACから音が小さい。 音がない。	出力極板ACから聞こえる音は、極板内の隙間を通る放電音です。 放電音は、環境や出力極板ACの消耗等さまざまな要因によって異なります。 そのため、音の有無や大きさは出力の判断基準にはなりません。
エナジーチェックの表示時間が短い。	エナジーチェックは極板の帶電に反応して表示部が点灯します。 表示時間はさまざまな要因によって異なります。 エナジーチェックの表示部は、長時間帶電させると破損の恐れがあるため、強制的に放電させる仕組みになっています。 このため、チェックしている間表示し続けるものではありません。 したがって表示時間の長さが判断基準ではなく、エナジーチェックに反応しているかどうかが放電の有無の判断基準となります。

### 3. 故障かな？と思ったら

症 状	考えられる原因と処置	参照ページ
電源スイッチを入れても電源が入らない。 表示部が点灯しない。	電源コードやACアダプターが正しく接続されていない。 → ACアダプターのDCプラグを本体背面のDCプラグ差込口に差し込んでください。 → 電源コードのコネクタをACアダプターのソケットに差し込んでください。 → 電源コードのプラグをコンセント(交流100V)に差し込んでください。	12
ボタンを押しても、操作音が鳴らない。	音量の設定が「b-0」になっている。 → 音量の設定を「b-1」～「b-3」で設定してください。	21
治療終了後、終了音が鳴らない。	音量の設定が「b-0」になっている。 → 音量の設定を「b-1」～「b-3」で設定してください。	21
エナジーチェックでの極板の点検時、「OK」が表示されない。	出力極板ACのプレートを手で触れている。 → 手をプレートから離して点検してください。  表示時間が短いため、見逃している。 → もう一度、点検してください。一瞬でも表示されれば正常です。	22～23
	機器本体の運転ボタンを押していない。 → 運転ボタンを押してください。	22～23
	プレートがエナジーチェックの挿入口にきちんと入っていない。 → 水平な場所でプレートを挿入口に適切に入れて、再度点検してください。	22～23
	何度も続けて点検している。 → しばらく時間をおいて再点検してください。	22～23

※対策実施後、状況が改善されなければ本体の故障です。販売店に修理を依頼してください。

### 1. 保証書について

本製品には保証書が付いています。お受取りになった保証書は、製造番号・保証満了日などの記載内容をお確かめのうえ、取扱説明書と同様に大切に保管してください。

必要事項が記載されていない場合は、お買い求めの販売店にお申し付けください。

本保証書は日本国内においてのみ有効です。

#### お客様の個人情報の利用目的

製品に関わるお客様の個人情報は、修理対応やサービス等の提供のために利用させていただく場合がございますのでご了承ください。

### 2. 消耗品の交換について（保証対象外）

- 出力極板ACおよび0V極板BD/YDは消耗品です。
- 治療による効能や効果を十分に維持するために、出力極板ACは1年毎の交換をおすすめします。
- 断線・破損した0V極板を使用すると、感電や電撃を受ける恐れがありますので、0V極板BD/YDは1～2年毎の点検をおすすめします。
- 電源コード、ACアダプター、出力極板ACおよび0V極板BD/YDに損傷などが生じているときは、そのまま使用すると危険です。新しいものに交換してください。
- 出力極板ACや0V極板BD/YDは長年使用するとケーブルの断線などで火傷や感電、火災などの事故のおそれがあります。

### 3. アフターサービスについて

本体に異常を感じた時は

修理を依頼される前に、26ページの「故障かな？と思ったら」をよくお読みください。

確認後も異常がある時は、ご使用を中止し、必ず電源コードのプラグを抜いてから、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

#### 保証期間中の修理

- 保証書は、取扱説明書等の注意書による正常なご使用で、保証期間中に故障した場合に、無料修理させていただくことをお約束するものです。  
保証期間内に故障して修理を受ける場合は、お買い求めの販売店又はレルテック医療器(株)に依頼の上、持込または輸送してください。  
輸送する場合は、納入時の梱包材をご使用いただいて梱包願います。
- 保証期間中でも、次の場合には有料になります。
  - ご使用上の誤り、不当な修理や改造による故障及び損傷
  - お買い求め後の輸送、移動、落下などによる故障及び損傷
  - 保証書に製造番号・保証満了日などの記載がない場合、あるいは字句が書き換えられていた場合
  - 不具合の原因が本製品以外(外部要因)による場合
  - 付属品及び消耗品の交換または修理(出力極板AC、0V極板BD/YDを含む。)
  - 修理見積りを提示後、お客様のご都合により修理をキャンセルする場合
  - 修理依頼箇所について当社にて一連の検査の上、異常が確認できなかった場合

## 仕様その他

### 保証期間が過ぎた場合

- 修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理いたします。
- 補修用性能部品は製造中止後、7年間保有しています。  
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- 修理のご依頼は、お買い求めの販売店またはレルテック医療器(株)にご連絡ください。

### 保証外

- 第三者による行為、その他の事故、お客様の故意または過失、誤用、その他の異常な条件下での使用により生じた損害に関して、当社は一切責任を負いません。
- 本製品の使用または使用不能から生ずる付随的な損害に関して、当社は一切責任を負いません。

※掲載した製品の仕様や外観は改良等の理由により、予告なしに変更することがありますのでご了承ください。

一般的名称	電位治療器
機器の分類	管理医療機器(特定保守管理医療機器)
販売名	レルテックMD21
型 式	MD21
外形寸法	300(W)×110(H)×280(D)(mm)
定格電圧	100-240V～(日本国内での使用の場合、AC100Vに限定)
定格周波数	50-60Hz
電源入力	50VA
重 量	約2.2kg(治療器本体)
治療時間	任意設定(1分～99分)
基本性能	本製品の基本性能は「出力電圧DC-5500V±500V」です。 電磁妨害により基本性能が喪失又は低下した場合、表示部が点滅したり、操作不能になることがあります。その際は、機器本体の電源を切り、治療を中止してください。
出力数	3パターン(出力1、出力2、出力1+2)
安全装置	・極板プラグが抜けた時、運転の自動停止 ・極板プラグが正常に挿入されていない時、運転しない ・過電流保護 出力部に保護抵抗を直列接続して電流の流れを制限
電擊保護分類	クラス I 機器
電擊保護の程度	B F形装着部
外郭保護分類	IPX0
作動モード	連続運転

製品の耐用期間は7年です。

### ユーザプロファイル

操作者	医師、看護師、理学療法士、作業療法士	患者	
性別	男女	年齢	3歳以上
年齢	20歳以上	体重	10kg以上
資格	医師免許、看護師免許、理学療法士免許、作業療法士免許	治療部位	手、足、肩、後頸部、下腹部
使用頻度	30分/回 数回/日	使用場所	専門の医療用施設内
言語	日本語		
知識	11歳以上で5年以上の学校教育を受けたもの		

使用・保管環境	
使用温度	10～39°C
使用湿度	30～85%RH(結露なきこと)
輸送・保管温度	0～50°C
輸送・保管湿度	10～90%RH(結露なきこと)
気圧範囲	80kPa以上

付属品	YD仕様	BD仕様
出力極板AC(2.5m/4m)	2本	2本
0V極板YD(2.5m/4m)	2本	—
0V極板BD(2.5m/4m)	—	2本
カバー小	4枚	4枚
カバー特小	8枚	4枚
ベルト特小W(長さ30cm)	4本	2本
ベルト中(長さ80cm)	1本	1本
ACアダプター(1.25m)	1個	1個
電源コード(2m)	1本	1本
接地アダプター	1個	1個
取扱説明書	1部	1部
絶縁マット(90cm×190cm)	1枚	1枚
エナジーチェック	1個	1個
スパイラルチューブ(2.5m/4m)	10本/16本	10本/16本

※ベルト大(長さ120cm)：別売りもあります。  
ご入用の場合は、お買い求めの販売店にお問合せください。

## 電磁エミッション

レルテックMD21は、次に指定した電磁環境内で使用を意図している。

レルテックMD21の顧客又は使用者は、このような環境内でそれを用いていることを確認することが望ましい。

エミッション試験	適合性	電磁環境－ガイダンス
放射妨害電界強度 CISPR11	グループ1	レルテックMD21は、内部機器のためだけにRFエネルギーを用いている。 したがって、そのRFエミッションは、非常に低く、近傍の電子機器に対して何らかの干渉を生じさせる可能性は少ない。
端子妨害電圧 CISPR11	クラスA	レルテックMD21は、住宅環境を除く全ての施設での使用に適している。次の警告に留意することを条件として、住宅環境及び住宅環境の建物に供給する商用の低電圧配電系に直接接続して用いてよい。
高調波電流 IEC 61000-3-2	対象外	<b>警告</b> レルテックMD21のエミッション特性により、工業領域及び病院での使用に適したものとなる(CISPR11 クラスA)。住宅環境に使用される場合(この場合、通常、CISPR11 クラスBが要求される)、レルテックMD21は無線周波通信サービスに対して十分な保護を提供しないこともある。 使用者は、レルテックMD21を再配置するか又は再方向付けなどの緩和手段をとる必要がある場合がある。
電圧変動/フリッカ IEC 61000-3-3	適合	

## RF無線通信機器からの近接電磁界に対するイミュニティ

レルテックMD21は、放射RF妨害を管理している電磁環境での使用を意図している。

レルテックMD21の顧客又は使用者はレルテックMD21とRF無線通信機器との距離を30cm以上離した状態で使用することが望ましい。

## RF無線通信機器に対する外装ポートイミュニティ試験仕様

試験周波数 (MHz)	帯域 <sup>a)</sup> (MHz)	通信サービス <sup>a)</sup>	変調 <sup>b)</sup>	最大電力 (W)	分離距離 (m)	イミュニティ試験レベル (V/m)
385	380~390	TETRA 400	パルス変調 18Hz	1.8	0.3	27
450	430~470	GMRS460 FRS460	周波数変調 ±5kHz偏移 1kHz正弦波	2	0.3	28
710	704~787	LTE Band 13,17	パルス変調 217Hz	0.2	0.3	9
745						
780						
810	800~960	GSM800/900 TETRA800 iDEN820 CDMA850 LTE Band 5	パルス変調 18Hz	2	0.3	28
870						
930						
1500						
1720	1700~1990	GSM1800 CDMA1900 GSM1900 DECT LTE Band 1,3,4,25 UMTS	パルス変調 217Hz	0.25	0.3	10
1845						
1970						
2450	2400~2570	Bluetooth WLAN 802.11 b/g/n RFID 2450 LTE Band 7	パルス変調 217Hz	2	0.3	28
3500	3400~3560	LTE Band 42	パルス変調 217Hz	0.2	0.3	9
5240	5100~5800	WLAN 802.11 a/n	パルス変調 217Hz	0.2	0.3	9
5500						
5785						

注a)幾つかのサービスでは、上り回線周波数だけを含む。 b)搬送波は、デューティ比50%の方形波で変調する。

c)周波数変調の代わりに、18Hzでの50%パルス変調を使ってよい。これは、実際の変調を表すわけではないが、最悪状態と考えられるからである。

## 電磁イミュニティ

レルテックMD21は、次に指定した電磁環境内で使用を意図している。

レルテックMD21の顧客又は使用者は、このような環境内でそれを用いていることを確認することが望ましい。

イミュニティ試験	試験レベル	適合レベル	電磁環境－ガイダンス
静電気放電(ESD) IEC 61000-4-2	接触:±8kV 気中:±2、4、8、15kV	接触:±8kV 気中:±2、4、8、15kV	床は木材、コンクリート又はセラミックタイルであることが望ましい。 床が合成材料で覆われている場合、相対湿度は、少なくとも30%であることが望ましい。
電気的ファストランジエント/バースト IEC 61000-4-4	電源ライン:±2kV 繰返し周波数100kHz	電源ライン:±2kV 繰返し周波数100kHz	電源の品質は、標準的な商用又は病院環境と同じであることが望ましい。
雷サージ IEC 61000-4-5	ライン-ライン間: ±0.5kV及び±1kV ライン-接地間: ±0.5kV、±1kV及び±2kV	ライン-ライン間: ±0.5kV及び±1kV ライン-接地間: ±0.5kV、±1kV及び±2kV	電源の品質は、標準的な商用又は病院環境と同じであることが望ましい。
電源周波数磁界 IEC 61000-4-8	30A/m(50 or 60Hz)	30A/m(50Hz)	画像にひずみが生じた場合、電源周波数磁界の発生源から離して配置するか、又は磁気シールドを施す必要があるかもしれない。 電源周波数磁界は、意図する設置場所において十分に低い値であることを確認できるよう測定できることが望ましい。
電圧ディップ/短時間停電および電圧変動 IEC 61000-4-11	0%UT:0.5サイクル間 0°,45°,90°,135°,180°, 225°,270°及び315°で 0%UT:1サイクル及び 70%UT:25/30サイクル 単相:0°で	0%UT:0.5サイクル間 0°,45°,90°,135°,180°, 225°,270°及び315°で 0%UT:1サイクル及び 70%UT:25/30サイクル 単相:0°で	電源の品質は、標準的な商用又は病院環境と同じであることが望ましい。 レルテックMD21の使用者が電源の停電中にも連続した稼動を要求する場合には、レルテックMD21を無停電電源又は電池から電力供給することを推奨する。
イミュニティ試験	試験レベル	適合レベル	電磁環境－ガイダンス
伝導イミュニティ IEC 61000-4-6	3V/m 150kHz~80MHz 6V/m 150kHz~80MHzの間のISM帯域	3V/m 150kHz~80MHz 6V/m 150kHz~80MHzの間のISM帯域	携帯型及び移動型RF通信機器は、ケーブルを含むレルテックMD21のいかなる部分に対しても、送信機の周波数に該当する方程式から計算した推奨分離距離より近づけて使用しないことが望ましい。
放射無線周波数電磁界 IEC 61000-4-3	電3V/m 80MHz~2.7GHz	電3V/m 80MHz~2.7GHz	イミュニティ試験レベル $E = \left( \frac{6}{d} \right) \sqrt{P}$ ここで、Pは送信機製造業者によるワット(W)で表した送信機の最大定格出力電力であり、dは、メートル(m)で表した推奨分離距離である。 電磁界の現地調査によって決定する固定RF送信機からの電界強度は、各周波数範囲における適合性レベルより低いことが望ましい。 次の記号を表示している機器の近傍では干渉が発生するかもしれない。 